

河川・流域(7) (2-A-10-4～2-A-12-1)

本セッションでは、研究内容の異なった6件が報告された。各テーマは、目新しいものではないが今まで重要視されていたものであり、多くの研究者が新規性ばかりに傾くなか、これらオーソドックスな調査研究の遂行に敬意を表するものである。このような基礎研究が、いざというときに役立つことはいうまでもない。日本人の流行を追い、そして覚めやすい性格にあって、本研究の継続と確実な発展が望まれる。生活環境の維持と自然環境保全を対象としたものに、身近な都市河川の保全・保護活動を扱った2-A-10-4と高速道路の鉛汚染とその原因を探った2-A-11-3の2件の報告があったが、貴重な成果からは具体的な保全への方策が提案されねばならない。またシリカ(2-A-11-4)とフッ素(2-A-12-1)を対象とした環境影響に対する事例研究は、生態環境への評価が不足している。海洋におけるシリカの現存量の変化とそれから推測される都市化の影響の説明、フッ素については人体への影響についての検討が必要である。また2-A-11-2の地質と窒素濃度の関係は、日本の河川・湖沼や海域の生態環境を特徴づけているとも考えられ、講演者等は調査をまず全国に広げる必要がある。また水質を利用した異常水質予測モデルの構築2-A-11-1は、現在も大きな問題である。利用方法やそのためのモニタリング体制などについてもお示し願いたい。

(北海道大学大学院工学研究科 橘 治国)